

2026年10月6日
吉野石膏株式会社

解体現場から約96,000㎡を回収・再利用、 ロックウール化粧吸音板の大規模水平リサイクルを実現

～清水建設・日本通運との連携で大規模な資源循環スキームを構築～

吉野石膏グループの日本ソーラトン株式会社(本社:千葉県袖ヶ浦市/代表取締役社長:遠藤 和美)は、清水建設株式会社、日本通運株式会社と連携し、「(仮称)芝浦プロジェクト 第Ⅱ期工事範囲解体工事(施工:清水建設株式会社)」において発生したロックウール化粧吸音板約96,000㎡を回収し、再び同製品の原料として活用する水平リサイクルを実現しました。

3社連携で解体現場から再原料化までをつなぐ資源循環スキーム

解体現場から発生するロックウール化粧吸音板は、異物の付着や他社製品との混在などにより、自社製品のみを適切に分別・回収することが難しく、大規模な水平リサイクルには回収から再原料化までを一貫してつなぐ仕組みが必要となります。

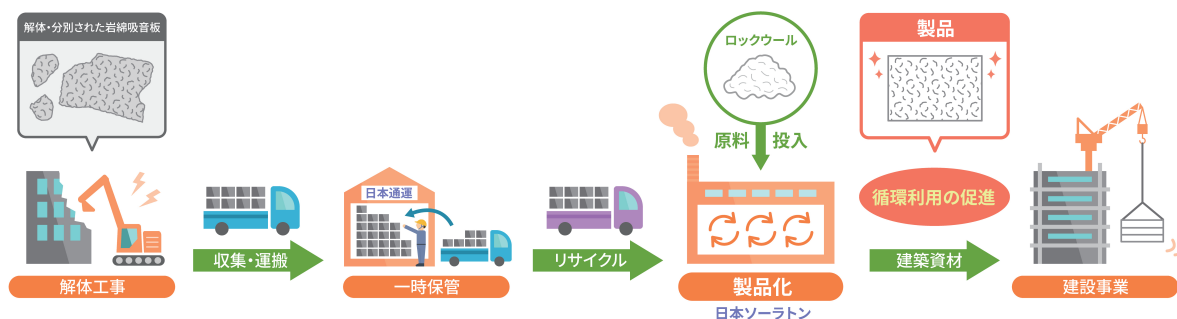
環境省の廃棄物処理法に基づく広域認定制度は、使用済み製品の運搬や処理を全国規模で行う際、都道府県ごとの許可を不要とする特例制度です。本取り組みでは、日本ソーラトンの広域認定を活用し、3社が連携して現地調査から回収、積み替え・保管を含む輸送、再資源化までの一貫した体制を構築しました。

日本ソーラトンが解体工事に先立って現地調査を行い、自社製品を特定したうえで回収対象を選定。清水建設が解体現場で対象となるロックウール化粧吸音板を分別・排出し、日本通運※が専用回収容器「NR BOX」で回収拠点に集約しました。

※日本通運は、日本ソーラトンの広域認定において「産業廃棄物の収集又は運搬に関し責任を有し行う者」として登録されています。

回収したロックウール化粧吸音板は、日本通運による一時保管・輸送調整を経て、日本ソーラトンの工場へ搬送し、再び同製品の原料として再利用しました。

こうした3社の連携と環境省の制度の活用により、現地調査から分別・回収、保管・輸送、再原料化までを一貫してつなぐ資源循環スキームを実現しています。(図1)



【図1】ロックウール化粧吸音板の回収・リサイクルスキーム

1 物件で約96,000㎡、大規模な水平リサイクルを実現

日本ソーラトンはこれまでも水平リサイクルに取り組んできましたが、1案件あたりの回収・再利用率は約150～200㎡程度でした。これに対し、本取り組みでは1物件で約96,000㎡を回収・再利用する大規模な水平リサイクルを実現。回収には専用回収容器「NR BOX」1,871基を使用しました。

本取り組みにより、建設廃棄物の削減や資源の有効利用に加え、新たな原料の使用や廃棄・処理に伴うCO₂排出量の削減にもつながります。

今後も吉野石膏グループでは、ロックウール化粧吸音板や石膏ボードをはじめとする建材の水平リサイクルを推進し、循環型社会の実現と環境負荷の低減に貢献してまいります。

※社名の「株式会社」は省略させていただいております。

吉野石膏株式会社 会社概要

本社所在地: 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号(新東京ビル)
 代表取締役社長: 須藤 永作
 設立: 1937年(創業: 1901年)
 事業内容: せっこう(石膏)を原料とする建築材料の製造・販売など
 ① <https://yoshino-gypsum.com/>
 ② <https://www.instagram.com/yoshino.gypsum>

本件に関するお問い合わせ先

吉野石膏株式会社 品質保証部
 ☎ 03-3890-2063
 ✉ https://yoshino-gypsum.com/support/form_tech